



## オフィスウィーク

平成22年2月9日(火)から16日(火)まで、オフィスウィークが開催されました。

全体の構成は、学内シンポジウムが1回、SDが3回、フォーラムが2回、公開シンポジウムが1回、最後に学内の総括フォーラムとなっています。以下では、このうち、学内シンポジウム、SD、総括フォーラムについて報告します。なお、オフィスウィークに関しては、オフィスジャーナル等でも発信していくことになっています。

### 学内シンポジウム「香川大学の国際戦略と海外交流拠点」

2月9日(火)、オフィスウィークの初めに、学内シンポジウム「香川大学の国際戦略と海外交流拠点」が行われました。第1部では、村山インターナショナルオフィスオフィス長からの全体的な説明の後、各部局による国際交流の現状報告がなされました。報告を行った部局および報告者は、順に、農学部(田村啓敏)、医学部(徳田雅明)、工学部(澤田秀之)、留学生センター(ロン・リム)、教育学部(高木由美子)、地域マネジメント研究科(板倉宏昭)です。第2部では、留学に関して、学生から提案があり、教職員との間で意見交換が行われた後、パネルディスカッション「香川大学の国際戦略と海外教育研究交流拠点」が行われました。

この第2部において出た、学生からの要望は、留学の支援体制の組織化、経済支援、他のキャンパスとの情報共有、留学機会の充実、留学時の単位互換の推進、などです。我々教職員にとっても、情報発信の強化と一元化の必要性を強く再認識する機会となりました。パネルディスカッションは、このオフィスウィークにおいて国際化の中期計画を整理していく出発点として行われ、現時点での案および議論のポイントが提示され、来場者との意見交換が行われました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



オフィスウィーク中のディスカッションの様子



## SD の実施

香川大学インターナショナルオフィスは、オフィスウィークにおいて、スタッフディベロップメント (SD) 1、2、3 を実施いたしました。

SD 1 においては、医学部において、医学部教職員、徳島文理大学教職員、県立保健医療大学教職員、留学生センター教員、国際グループ職員が参加し、2つのグループ（留学生交流に関すること）、（研究者交流、国際共同研究、地域社会、国内外の研究機関等との連携など）に分かれて、それぞれ現状の問題点と感じていることについて意見を述べ、解決策、改善方法等について意見交換を行いました。

SD 2 においては、工学部において、工学部教職員、国際グループ職員が参加して、工学部の国際交流等について報告及び国際交流と戦略についての議論が行われ、インターナショナルオフィスの在り方等について、意見交換が行われました。

SD 3 においては、大学の国際化と事務支援体制として、JSPS バンコク連絡研究センター副所長 角田 亜紀子氏から「日本学術振興会バンコク研究連絡センターの活動」について、説明がありました。

また、SD 1、2 の総括として、SD 1、2 の報告があり、大学の国際化と事務支援体制について、活発な議論が行われました。

(国際グループ 藤川 勝)

## 総括フォーラムの報告

平成22年2月16日(火)、オフィスウィーク総括フォーラムを開催しました。平成21年4月のインターナショナルオフィス設置以降、オフィス委員を中心とする関係者は香川大学国際化の基本方針と国際戦略について様々に議論を重ねてきましたが、本フォーラムでは、これらの議論とオフィスウィークでの議論にもとづき、オフィスが「香川大学国際化の基本方針と国際戦略」を完成させ、所定の手続きを経て正式に発表することが決められました。

本フォーラムでは上記のことを確認した上で、オフィスウィーク全体を振り返って、今後、以下4点を重点的に取り組むことが合意されました。詳細は『香川大学インターナショナルオフィスジャーナル』第1号へ掲載予定です。

1. オフィスとその他の部局（学部等）の役割と連携について
2. オフィスの窓口機能の明確化について
3. オフィスの学生支援について
4. 全学のスタッフ・ディベロップメント（本学の国際化に向けて）について

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)

## 部局の国際交流情報

### 本学医学部とブルネイ・ダルサラーム大学との交流

次ページにありますように、本学はブルネイ・ダルサラーム大学と協定を締結しました。今回は医学部提供の資料に基づき、なぜ本学が同大学との交流を進めてきたのか、という点を中心にお知らせします。

まず、ブルネイ・ダルサラーム国は英国の医療システムを導入し、一定水準の医療を提供していることが挙げられます。研究面では、糖尿病、メタボリックシンドロームのような生活習慣病や、老化問題を両国共通の研究課題としています。加えて、食の安全、環境問題などのテーマでは、他学部との共同参画が可能になります。さらに教育面でも、同大学の教育が英国式でありレベルが高く、英語の普及率も高い、という状況により、本学からの学生の派遣も行いやすくなっています。

実際に交流を進めるに当たっては、国としての対応も考慮する必要があり、同大学との交流においては、日本大使館も参画しています。また、ブルネイ・ダルサラーム国自体も、日本への関心が高く、友好的であり、この交流にも国家として対応してきています。

同国は、周辺諸国への関係性において中心的役割を果たすことが可能です。すなわち、同国を通して、本学は ASEAN 諸国とつながることができるのです。したがって、同大学との交流により、地域貢献、周辺諸国への貢献も可能になります。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



ブルネイ・ダルサラーム大学との調印



ブルネイ・ダルサラーム国保健省との調印

## 協定締結調印

本学では2009年10月以降、現在までの間に以下の協定を締結しました。

- 2009年11月8日 本学とブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）との学術交流に関する覚書
- 2009年12月5日 本学医学部とブルネイ・ダルサラーム国保健省との国際協力に関する覚書
- 2010年2月1日 本学とチュラロンコン大学（タイ王国）との学術交流協定及び学生交流協定
- 2010年2月16日 本学インターナショナルオフィスとグラム・バンガラ（バングラデシュ人民共和国）との地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定

## 海外語学研修ガイドスの報告

平成21年11月18日（水）、研究交流棟（幸町キャンパス）第3講義室にて、海外語学研修ガイドスを実施しました。

春休み期間中の海外（カナダ、オーストラリア、韓国）の大学での語学研修に関心をもつ学生向けに、研修先大学や研修コースの紹介、ホームステイ、渡航中の危機対応などについて説明しました。また、平成20年度の春休みに研修へ参加した学生の内、3名（佐藤悠衣さん（教育学部）、間野純子さん（教育学部）、奥田裕太郎さん（経済学部））が体験談を発表してくれました。彼らの研修先大学はビクトリア大学（カナダ）とエディスコアアン大学（PIBT）（オーストラリア）です。

平成21年度の春休み期間中の研修先大学および研修期間は下記の通りです。

### 【カナダ】

ビクトリア大学（平成22年3月1日～3月26日）

ブリティッシュコロンビア大学（平成22年3月1日～3月26日）

### 【オーストラリア】

ジェイムスック大学（平成22年3月15日～3月26日）

### 【韓国】

建国大学（平成22年2月22日～3月5日）

海外の大学での語学研修へ関心のある学生はインターナショナルオフィスへお問い合わせください。

（インターナショナルオフィス 正楽 藍）



体験談を発表する学生（佐藤さん、教育学部3年、ビクトリア大学での4週間の研修コースへ参加）



ガイドスを聴く学生

## 「平成21年度日本留学フェア（タイ）」報告

本学はここ数年、留学生増を望む台湾と韓国でのフェアに参加してきましたが、平成20年度より、海外交流拠点のタイでも参加することとし、平成21年度も、11月17日（火）チェンマイ、28日（土）バンコクで広報・留学相談を行いました。

通常は1大学1ブースですが、チェンマイ会場では、今年から農学部で開始された「アジア人財資金構想高度専門留學生育成事業」のPRにも力を入れるべく、インターナショナルオフィスと農学部の2ブース設けてPRに努めました。総来場者数は昨年よりやや少なかったものの（両会場合わせて2,147名）、本学ブース来訪者は、特に週末の首都バンコクでは2割増（106名）という成果を得ました。

詳細版はホームページに掲載予定です。

（インターナショナルオフィス 塩井 実香）



バンコク会場入り口



バンコク会場ブース

## 第11回日本語語学研修プログラム

平成22年1月25日（月）から2月5日（金）まで、第11回日本語語学研修プログラムが開催されました。中国（北京工業大学）、韓国（建国大学、ハンバット大学）、台湾（真理大学、輔仁大学）から、計14名の学生が参加しました。今回は、平成20年に協定を締結したハンバット大学の学生が初めて参加しました。

前回同様、学生の体験談はインターナショナルオフィスのホームページに掲載しますので、併せてご覧ください。

（インターナショナルオフィス 高水 徹）



体験学習「茶道」



学外実習「四国村」

## 経済産業省委託事業「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業

### 外国人留学生インターンシップ体験発表会・留学生採用支援セミナー

平成21年10月16日（金）、研究交流棟5階研究者交流スペースにて、「外国人留学生インターンシップ体験発表会・留学生採用支援セミナー」を開催しました。田港副学長（国際・連携担当）の開会あいさつの後、本事業平成21年度生4名と平成20年度生の内1名によるインターンシップ体験発表を行いました。インターンシップ体験発表会に続き、行政書士・社会保険労務士 吉井幸子様による「留学生採用の際の留意点について」のご講演を行いました。当日は県内の日本企業関係者、本学及び高松大学の教職員、外国人留学生等が参加され、活発な議論を行うことができました。体験発表会の様子は翌17日（土）の四国新聞にも掲載されました。

### 留学生のための就職支援ガイダンス

平成21年10月24日（土）、研究交流棟6階第1講義室にて、「留学生のための就職支援ガイダンス」を開催しました。大倉工業株式会社総務部・人事労務課 武澤係長によるご講演の他、本事業平成19年度生と平成20年度生、県内の日本企業で活躍する元留学生、そして、来春卒業予定の日本人学生、計4名の学生と社会人によるパネルディスカッションを行いました。ディスカッションのコーディネートを、香川大学キャリア支援センターの津田副センター長にお願いしました。日本での就職活動のスケジュールや要点、必要経費、留学生特有の難しさ、そして、留学生と日本人学生の就職活動の類似点や相違点など、実際の体験にもとづく話をしてもらいました。参加した会場の留学生からは、就職活動の情報の集め方や日本企業で働くことの（元留学生としての）難しさ、現在の仕事内容など、さまざまな質問が寄せられました。

### 企業見学会

平成22年1月15日（金）、留学生対象の企業見学会を実施しました。見学先企業は株式会社レガン様です。香川県を代表する手袋メーカーであるレガンの社員の方々が手袋の企画や製造の行程、海外との取引などについて説明してくださいました。手袋ミュージアム内も見せていただき、世界で活躍するスポーツ選手の手袋を間近で見ることができました。見学の後は、砂川代表取締役が講演をしてくださり、留学生は、レガン様が手袋づくりにかける想いに熱心に耳を傾けていました。

### 平成20年度生修了式

平成22年3月1日（月）、研究交流棟6階第1講義室にて、本事業平成20年度生修了式を開催しました。修了生3名（べん 辺 嘉賓さん、せよ 許 俊彦さん、アルム・エムディ・シャミウルさん）は2年間の学びへの感想や修了後の抱負、お世話になった教職員への感謝の気持ちを述べてくれました。香川県内日本企業や母国での就業で、本事業の授業やインターンシップなどを通して学んだことをぜひ生かしてもらいたいと思います。また、四国経済産業局・産業人材政策課 牧野課長と四国生産性本部 合田プロジェクトリーダーにもご挨拶いただき、修了生が日本と海外との架け橋として活躍することを大いに期待していると述べられました。

（インターナショナルオフィス 正楽 藍）



外国人留学生インターンシップ体験発表会で参加者からの質問に答える留学生



留学生のための就職支援ガイダンスでパネルディスカッションを聴く留学生



平成20年度生修了式

## 関連学生団体の活動

### 平成21年度 香川大学 ICES（異文化交流会）年間活動報告

今年度は香川大学 ICES の10周年という節目の年であった。また、今年度より『香川大学学生支援 GP 主体性の段階的形成支援システム』における活動団体に認定されたため、今後の ICES の活動を活性化させていくためにも良い年になったのではないだろうかと思う。……（中略）……10月に入り、初頭に韓国からの留学生のボランティアチューターを募集した。私と1年生の女の子4人がチューターを担当し、一緒にご飯を食べに行ったり、外国人登録証の手続きを行ったりした。……（中略）……11月21日は『ICES10周年・KUFSA12周年記念イベント』を開催した。OB・OGの方をお招きし、これまでのICESの活動の話題に花を咲かせた。22日は学生支援サークル・MINtSと合同企画で『Winter Party』を行った。普段留学生と交流を図る機会が少ない香川大学の一般の学生にも留学生と親睦を深めてもらった。

（経済学部2年 田中美帆）

### 香川大学留学生会（KUFSA）の平成21年度の活動

早いもので、KUFSAが発足してからもう12周年を迎えました。この12年間、KUFSAは香川大学の留学生センターの先生方のご指導と地域の国際交流団体のご支援、および学生のみなさんのご協力により、著しく発展しています。皆様に心から御礼を申し上げます。……（中略）……〔2月のお別れ会について〕あっという間に1年間が終わりました。日本のことわざのように「会うのは別れの始め」、どうしても人生にはこのような悲しい時が来ます。終了後、留学生たちは帰国する人もいれば、日本で就職する人もいます。これから、どのような進路を目指しても、留学生の皆さんは学校で学んだこと、日本生活で経験したことを活かして、ますますご活躍できるようにお祈りします。

（教育学研究科2年 Nguyen Thi Thu Nguyet）

これらの報告の詳細版はホームページに掲載予定です。



## 留学生センターによるプログラムの修了

平成22年2月19日（金）に留学生センターによるプログラムの合同修了式が行われました。修了生は合計6名で、1名は教員研修生（国費留学生）として、半年間の「日本語研修コース」を終えました。この後、教育学部で専門の数学教育に関する研修に入ります。例年、このコースの学生は「あいうえお」から日本語を始めます。他の5名は韓国のテグ大学からの科目等履修生で、半年間「短期（6ヶ月）日本語プログラム」を受講しました。こちらのコースの学生は修了後は韓国へ帰国します。

以下は学生の作文からの抜粋です。

日本人は せいかつの中で にんげんの ちを おしえて くれました。たとえば せいじつや せきにんや そんけい などです。ですから 日本は せいこうした 国だと おもいます。

それで たくさんの外国人は 日本の いいことを ならいに きたいのだと おもいます。

（カルシン キスベ エドガー サンドロ、ペルー、日本語研修コース）

私は初めて一人で生活するようになりました。日本に来た一番大きい理由は日本語の向上ですから一人でも大丈夫だと思いました。なぜなら日本語勉強だけをすればいいから孤独でも辛くても平気だと思ったからです。

（金 泳辰、短期（6ヶ月）日本語プログラム（以下同様））

1月9日に寮でもちを作って、ぞうにもちを入れて食べました。それはとてもおいしかったです。またいい機会があって茶道を習いました。あしがしびれて大変でしたが、いい経験でした。

（崔 美培）

日本人と一緒に聞く授業で私の話の流れが前より上手になったと言われた。この話を聞いて私は日本に来たのがむなしいことはなかったと感じた。また、日本語に関して自信も戻った。

（趙 東京）

日本で約4カ月ぐらい留学生活をしながら感じたのは、経験が一番重要であるということです。日本に来て初めて日本人と話し合っって日本の文化を身で直接感じました。私はこれが留学の利点だと思います。留学生活での経験はこれからも本当に大切な資産になると思います。

（表 洙慶）

実際に来て見れば思ったよりすぐ慣れてあまり大変なこともありませんでした。友達といっしょに生活して韓国人が多くていろいろ手伝ってもらいました。そのため日本で生活していると感じられませんでした。日本語であまり話さなくて話があまり通じなくても生活するには問題がありませんでした。だから、言語を勉強するためには大変でも一人で留学することがもっと良さそうだと思います。

（裴 恩慧）

（インターナショナルオフィス 高水 徹）



教員研修生



短期日本語プログラムの学生（左から表、裴、崔、金、趙）

香川大学  
インターナショナルオフィスニュース  
第2号 2010(平成22年).3.31

香川大学インターナショナルオフィス  
〒760-8521 高松市幸町1-1  
Tel : 087-832-1194 Fax : 087-832-1155  
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp  
<http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/index.pub>